

横浜銀行と言えば、資金量 14 兆円(2019 年 3 月末時点)を誇る地方銀行最大手の銀行です。全国的に見ても、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、りそな銀行の次に大きな銀行です。

一方で、千葉銀行と言えば、資金量 12 兆円を持ち、地方銀行の中で横浜銀行と肩を並べる規模の大手銀行です。この両行は会社規模も大差なく、営業エリアも東京を挟んで近接しているため、これまで犬猿の仲と言われてきました。

ところが、7 月 10 日、この 2 行が業務提携することで基本合意したとのニュースが流れ、業界関係者は騒然としています。提携の名称は「千葉・横浜パートナーシップ」。規模の小さい千葉銀行の名前を先に立てたのは横浜銀行の気遣いでしょうか。

東京商工リサーチによると、両行合算のメインバンク企業数は 3 メガバンクに次ぐ約 4 万社とのこと。

今後は協調融資や事業承継・M&A 支援、重複がない海外支店の相互活用などで法人営業の高度化を目指しているそうで、横浜銀行の大矢頭取が「100 億円の収益改善効果を狙っている」と発言するなど、その本気度が伺えます。

これまでも地方銀行の経営統合が続いていましたが、まさか 1 位と 3 位が、しかもバッチバチの喧嘩相手同士が手を結んだというのは、改めて地方銀行の経営環境の厳しさを浮き彫りにしました。このニュースは現場の銀行員もニュースで初めて知った方が多かったようです。

これまで横浜銀行と千葉銀行を競争させることで有利な条件を引き出していた企業にとっては、この 2 行が互いに気を遣うようになると競争原理が働かなくなりますので、新たな地方銀行を追加するなど、今後の付き合い方を考えなければいけないかもしれません。

また、横浜銀行と同じコンコルディア・フィナンシャルグループ傘下の東日本銀行は「ビジネスモデルの違い」(横浜銀行・大矢頭取)からこの業務提携の枠組みからは外れるそうです。

不祥事を起こして依頼、東日本銀行は横浜銀行からお荷物扱いされているところがあるようで、東日本銀行とお付き合いのある企業は、このまま同行が落ち目になっていくのに備えて新たな銀行との付き合いを始めた方が良くかもしれません。

一方、埼玉県の武蔵野銀行と包括提携している千葉銀行の佐久間頭取は「将来的に 3 行で協働することも検討したい」と話していて、武蔵野銀行はこの枠組みに参加するかもしれません。

埼玉県では埼玉りそな銀行に圧倒的な差をつけられていましたので、武蔵野銀行にとってはさらに強力なパートナーを得られることになります。

繰り返しになりますが、今回のニュースは銀行界では非常に大きな動きであり、刺激を受けた他の銀行にも動きが出てくるかもしれません。皆さまのコントロールできないところで、付き合いしている銀行同士が業務提携して仲良くなったり、合併によって一つになることは、今後も突然やってくる可能性が十分あります。

このような動きは現場の銀行担当者の知り得ないところで行われていますので、
どんなに担当者と仲良くしていても対策になりません。

金利が一番低いところ、返済期間が一番長くしてくれるところ、担当者との相性が一番合うところ、
そういった目線だけで付き合い銀行を選ぶのではなく、「この銀行は今後も生き残れるだろうか」
という目線が求められてきています。